

第 25 期横浜市スポーツ推進審議会 第 6 回会議

令和 4 年 3 月 11 日 (金)

横浜市役所 18 階 みなと 4・5 会議室

## 1 開会

○熊坂部長 お待たせいたしました。ただいまから第25期横浜市スポーツ推進審議会第6回会議を始めます。このたびは、皆様大変お忙しい中、御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

## 2 定足数確認

○熊坂部長 本日は、委員総数13名のところ、リモートでのご出席5名を含み、9名にご出席をいただいておりますので、横浜市スポーツ推進審議会条例第6条第2項の規定に基づき会議は有効に成立しております。

なお、本日はご都合によりゼッターランド委員が遅れてご参加との連絡を受けております。また、大日方委員、小泉委員、佐々木委員からご欠席の連絡をいただいております。委員の皆様に加えて、教育委員会事務局、健康福祉局、環境創造局、リモートにて横浜市スポーツ協会も出席しております。

## 3 市民局スポーツ統括室長あいさつ

○熊坂部長 それでは開催にあたりまして、市民局スポーツ統括室長の西山から、ご挨拶申し上げます。

○西山室長 皆さんこんばんは。スポーツ統括室長の西山でございます。本日はお忙しい中、第25期横浜市スポーツ推進審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の一つ目の議題は、「横浜文化体育館再整備事業メインアリーナの名称について」です。2月14日に本審議会に諮問、また、事前のアンケートをお願いするなど、お忙しい中、本当にありがとうございます。横浜文化体育館再整備事業につきましては、今年の1月19日から2月15日の間で市民意見募集を行いました。1,416件の応募ということで、非常に多くの市民の方々からご意見をいただきました。皆様方に大変興味を持っていただいているのかと思います。こういった多くの意見が集まった中で、しっかりした名称をつけて、皆様に親しまれる新文化体育館となれば良いな、と思っておりますので、皆様のご審議をいただければと思っておりますのでございます。

また、以前からお願いしております横浜市スポーツ推進計画（素案）につきましても、市民意見募集を行い、市民の皆様方からご意見をいただきました。これを反映させた原案についても、本日ご審議いただければと思っておりますのでございます。

現在開催されている北京パラリンピックでは、残念ながらウクライナ情勢により、ロシア、ベラルーシの選手団が除外となりました。平和の祭典のオリンピック・パラリンピックでこのような出来事になっているということは、政治情勢についてのコメントは差し控えさせていただきますが、やはり残念だな、と思いますし、選手の皆様方も心を痛めていらっしゃるのではないかな、と思っておりますのでございます。一方、先日行われた北京オリンピッ

クの方では、横浜市ゆかりの選手である鍵山優真選手が、個人戦の銀、団体戦の銅メダルということで、横浜市六角橋中学、横浜の星槎学園が注目されております。一方、日本体育大学出身の高木美帆選手は、1000mでの金メダルと、日本選手史上初となる最多の4つのメダルを獲得されました。横浜をはじめ、日本全国に大いなる感動を呼び起こしていただいたのかと思います、改めてスポーツの素晴らしさを実感しているところでございます。

委員の皆様には大変貴重なご意見を多数いただいているところですが、ぜひ横浜から日本を元気にしたい、と考えておりますので、引き続き本日も、忌憚のないご意見をどうぞよろしく願います。

**○熊坂部長** 本審議会はスポーツ基本法第31条及び横浜市スポーツ推進審議会条例第1条の規定に基づき設置されているものでございます。横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条の規定に基づき、公開の対象となり、議事録につきましても閲覧の対象となることを御了承ください。なお、本日傍聴希望者はいらっしゃいません。

議事録署名人名につきましては、第1回会議において決定したとおり、2名ずつで持ち回りしていただくこととなっており、本日は宮嶋副会長、山口会長に願います。なお、前回の審議会の議事録につきましては、お手元に配付いたしましたので、後ほど御覧ください。

それでは、これ以降の進行につきましては、山口会長に願いたいと存じます。よろしく願います。

## 4 議題

### (1) 横浜文化体育館再整備事業 メインアリーナ名称について

**○山口会長** 皆さんこんばんは。本日もよろしく願います。それでは次第に沿って進めて参ります。

議題1「横浜文化体育館再整備事業 メインアリーナ名称について」、事務局から説明を願います。

**○事務局** それでは資料1「横浜文化体育館再整備事業メインアリーナの名称について」をご覧ください。こちらの案件でございますが、現在再整備を進めております横浜文化体育館の、新たに出来る(仮称)メインアリーナについて、先般市民の皆様にご意見を募集を行いました。今回この結果を受けて名称を決めるにあたりまして、横浜市スポーツ振興に大いに寄与する施設であることから、当審議会にてご審議いただきますよう、2月14日に諮問させていただきました。どうぞご確認くださいませ。

それでは続きまして資料1別紙1をご覧ください。市民意見募集の概要についてご説明いたします。こちらは今年1月19日から2月15日までの1か月の間、市内在住、在勤、在学の方を対象に、インターネット及びハガキにて意見募集を行いました。再整備はPFI事業で行っており、その事業者である「株式会社YOKOHAMA文体」から提案を受けた、4案の内から選んでいただくか、もしくは新たなご提案をいただく、という形式にしておりました。また、それを選んだ理由についても記載していただいております。市民の皆様からは、1,416票のご意見をいただいたところでございます。

続きまして、資料1別紙2、3、4がございます。こちらが集計の結果となっております。まず別紙2をご覧ください。最初に左のページからご説明いたします。今回得票が一番多かったのが、ア「横浜Uアリーナ」で、494票でした。カッコいい、おしゃれ、センスがいい、などの理由を多くいただきました。続きまして2番目が、ウ「横浜文化体育館」の254票です。親しみ、馴染み、愛着、思い出があるなどの理由を多くいただいております。続きまして、エ「よこはまぶんたい」の121票、こちらでも文化体育館同様の理由を多くいただきました。イ「横浜体育館」は60票、シンプル、武道館と合う、などの理由をいただいたところでございます。そして右のページでございますが、オ「その他」で、ご提案いただいた意見をまとめております。全部で487票ございました。そのうち、複数の方から寄せられた名称で一番多い19票だったのが、1位にございます「横浜文体アリーナ」になります。慣れ親しんだ文体の名前を残してほしい、などの理由がございました。

続きまして別紙3をご覧ください。こちらは「その他」の487票を分析したものになります。資料上部に記載しておりますが、PFI事業者より提案のあった4つの名称でございますが、「地域」、「特徴」、「建物・機能」の、3つのワードで構成されていたものになります。この資料では、その他でいただいた提案につきまして、それと同じ考えで分類を行いました。まず一番左の1stワード、「地域」を示すワードとなっております。こちらにつきまして、表記は様々でございますが、「横浜」が含まれる名称が379票ございました。続きまして2ndワード、「特徴」を示すワードでございます。こちらでも表記は様々でございますが、「文体」というワードが含まれる名称が70票ございました。その後「文化」、「ベイ」などが続いております。続きまして3rdワードです。「建物・機能」を示すワードといたしまして、「アリーナ」が311票、次いで「体育館」が22票ございました。

更に別紙4がすべてのご意見と理由をまとめたものになりますので、ご参照いただければと思います。説明は以上となります。

**○山口会長** ありがとうございます。続きまして、今回は限られた時間内での審議となることから、事前に委員の皆様にご意見をいただきました。その内容につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

**○事務局** それでは引き続き説明をさせていただきます。資料1別紙5をご覧ください。委員の皆様には、事前意見の集約にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。こちらの資料ですが、まず「0」として、いただいたご質問をまとめさせていただきます。こちらは後ほどご回答させていただきます。

1枚めくっていただいて、委員の皆様からいただいたご意見を、4つの観点「1. 今回の市民意見募集についての意見」「2. 市民意見の傾向に対する意見」「3. 具体的名称についての意見」「4. 名称決定にあたり考慮すべき事項」から、整理をさせていただきました。主なご意見について説明をさせていただきます。

まず「1. 今回の市民意見募集についての意見」でございます。市民の皆様への関心・期待の高さ、地域への思いの強さ、新しい風を求める意識、などのご意見をいただいたところがございます。

続きまして「2. 市民意見の傾向に対する意見」です。委員の皆様からは市民の皆様は親しみのある名称を求めている、というご意見を多くいただいております。その他具体的には、石黒委員の意見でございますが、『選択理由を見たときに、横浜Uアリーナの「カッコいい・

おしゃれ」等と横浜文化体育館の「愛着・思い出」等が突出している』、とのご意見がございました。こちらに関連してくると思われませんが、次の「3. 具体的名称についての意見」です。佐々木委員からも『選択肢単体で行くと「横浜Uアリーナ」が圧倒的多数だが、「横浜体育館」「横浜文化体育館」「よこはまぶんたい」は併せて選択理由が類似しているようなので、総合的には二分されている』、とのご意見をいただいております。今回の資料集約にあたりまして、ご意見いただいた言葉をお借りしまして、「横浜Uアリーナ」系、「横浜（文化）体育館」系の概ね2つに分けて、整理をさせていただきました。3-1「横浜Uアリーナ」系です。こちらにつきまして、『ユナイテッドという言葉はスポーツと文化の融合など、有用な言葉ではないか』、というご意見や、『最も多くの票を集めていることを考慮する必要があるのではないか』、などのご意見をいただいております。続きまして3-2「横浜（文化）体育館」系として、でございます。『文体といえば関内というイメージ』、『以前の文化体育館をイメージできることも必要』、『文体は市民にとっての愛称』、などのご意見をいただきました。また3-3その他といたしまして、『カテゴリーはアリーナに、横浜は何かつけて、わかりやすく馴染みがある“ぶんたい”をいれてはどうか』、というご意見もございました。

続きまして「4. 名称決定にあたり考慮すべき事項」についてのご意見です。こちらで多くいただきましたのが、『他の場所と間違えにくいこと』、というご意見でした。具体的には『横浜アリーナとの混同』、というお話が出て参りました。次に『旧体育館の歴史、伝統、そこにある市民の思いについて考慮すべき』、などのご意見を多くいただいております。その他、『今少し長い目で名称を考えるべき』、『皆が様々な目的をもって主体的に参加できる場所としての名称』、などのご意見もいただきました。ご紹介させていただいた他にも、多くの貴重なご意見をいただいております。恐れ入りますが、ご意見の詳細につきましては、資料をご確認くださいませよう、お願いいたします。

続きまして、今の別紙の表紙でございます、事前にいただきましたご質問について、回答をさせていただきます。「0. 質問」をご覧ください。

まず佐々木委員から、「この施設の用途、使用目的や対象を再確認したうえで、それにふさわしい名称にするのがよいのではないかと思います。つまり、国際的な大会やイベントを重視した国外あるいは横浜圏外を指向した施設なのか、市民の活用を第一としたものと考えたのかで名称は変わってくるのではないのでしょうか。横浜市、行政としてどのようなスタンスなのか重要なのではないのでしょうか」とのご質問をいただきました。こちらについてですが、今回メインアリーナと既に整備されている横浜武道館を活用することで、スポーツの国際大会や大規模イベントも開催できるようになります。一方、旧体育館では様々なスポーツやコンサート、成人式など多岐にわたる催しが行われ、市民の皆様には長きにわたり、愛されてきた施設でございます。新しい施設においても、市民の皆様の利用を中心に親しまれ、活用される施設を目指して行きたいと考えています。

続きまして2問目、平井委員からいただいたご質問です。「今回の名称募集にあたり、周知方法は妥当だったのか？募集期間は妥当だったのか？約1,400票という票数は、多いのか？少ないのか？等を、検証すべきと考えます」といただきました。こちらにつきましては、本市では市政に関し、市民の皆様の意見を伺うヨコハマeアンケートという仕組みがございます。こちらの回答数が概ね1,200人～1,700人であることから、今回もその程度の回答

数を得たいと考えておりました。今回周知として、まず記者発表を行うと共に、ホームページやLINE、Twitter等のSNSも活用しております。また、募集の期間といたしましては、過去の本市類似事例で、大体20日程度のところを、今回約1か月間募集させていただきました。結果といたしまして、1,400を超える応募数を得られたことで目標の応募数は達成したと考えております。

続きまして、石黒委員のご質問です。「多くの意見が集まっていることは注目度の高さを示しておりそれだけ重要な役割を担う施設であることを再認識しました。また、回答者の属性がわかっているのであればそれも踏まえて検討していく必要があると感じました」ということでございます。これにつきましては、私どもも市民の皆様の関心の高さを改めて認識したところでございます。今回の名称募集におきましては、回答者の属性情報に関連する部分につきましては、市内在住、在勤、在学のいずれに属するか、というところを伺ったのみでございまして、年代、性別などについての情報は集めておりませんでした。

続きまして、石黒委員からいただきました「将来的にネーミングライツを導入する予定はあるのでしょうか？もしその可能性があるなら今回選定する名称よりその後命名された名称の方が多用される可能性があり、そのことも念頭においた検討が必要かと思いましたが」とのご質問でございます。こちらにつきましては、現在のところネーミングライツの導入は予定しておりません。しかし本市では持続可能な市政が進められるよう、中長期的な方針としての財政ビジョンを作成しているところでして、この方針に基づく運営などの見直しにより、将来的に検討していく可能性はあると考えております。

それでは最後、山口委員からのご質問です。「似た名称によって施設を間違えてしまうことはないでしょうか。例えば、横浜アリーナがありますが、他のアリーナと間違えた事例などはありますか」というご質問をいただきました。こちらにつきましては、アリーナではありませんが、日産スタジアムで国際大会を開催した際、海外からいらっしゃったお客様がタクシーに行き先を言われたところ、横浜スタジアムに連れていかれた、という例は聞くことがございます。説明は以上となります。よろしく申し上げます。

**○山口会長** ありがとうございます。こちらの資料ではいただいたご意見を4つの観点で整理していただきました。それぞれご意見、反映されていますでしょうか。よろしいですか。それではこちらを元に、具体の名称について議論して参りたいと思いますが、名称の議論にあたっては、お手元の資料1、別紙3にあります、提案されている名称の構成であります、「地域」を示すワード、「特徴」を示すワード、「建物・機能」を示すワード、の考え方を参考にしていきたいという風に思います。

はじめに、「地域」を示すワードです。別紙3及び別紙5の「2. 市民意見の傾向に対する意見」を参考に、ご意見がございましたら頂戴したいと思います。

(意見なし)

続きまして「特徴」を示すワードです。別紙5の委員意見では、横浜Uアリーナ系と横浜文化体育館系に大きく分かれる、ということもいただいています。この点につきまして委員の皆様からこれまでのことを踏まえて、ご意見があれば頂戴したいと思います。

(意見なし)

次に「建物」を示すワードです。投票結果では「アリーナ」が多いようですけれども、別紙5で委員の皆様から考慮すべき点として意見をいただいております。この点につきまして、委員の皆様からご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(意見なし)

それでは、まとめさせていただきたいと思います。名称構成の考え方、「地域」を示すワードでは、自由意見でも「横浜」が数多く応募されていることから、「横浜」は必要だと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

建物の特徴ですが、選択肢が「横浜文化体育館」が254票、「よこはまぶんたい」が121票。また自由意見で文体関連の得票が70票とすると、合計すると450票ほどとなります。委員からの意見でも、旧体育館の歴史、実績、伝統を考慮していくべきということではありますが、それを踏まえて「文体(ぶんたい、ブンタイ、BUNTAI)」を特徴としてはいかがでしょうか。

(異議なし)

あと名称構成の考え方、建物を示すワードにつきましては、ご意見からはアリーナ系は得票数も多いものの、他の施設と混同しやすい懸念があると思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それではまとめとしては、以上の点を踏まえすと、名称決定における必要な要素は「横浜」「文体(ぶんたい、ブンタイ、BUNTAI)」と整理出来るかと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは当審議会としては、「横浜」「文体(ぶんたい、ブンタイ、BUNTAI)」ということで、整理をさせていただきまして、表記につきましては、ひらがな表記は投票において少数意見であったことから、その他の表記で検討するのがよろしいかと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それではこのような形でまとめさせていただきますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。

それではいただいたご意見を踏まえまして、審議会の答申とさせていただきます。答申書のまとめにつきましては、委員長、副委員長一任ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは委員の皆様ありがとうございました。今後の予定を事務局からお願いいたします。

**○事務局** 委員の皆様、どうもありがとうございました。今後の予定ですが、当審議会からの答申を受けまして、本市にて名称案を決定いたします。そののち、名称案を「横浜市スポーツ施設条例」の改正案をもって、令和4年第2回市会定例会に提出し、議決をもって名称を正式決定したいと考えております。どうもご協力ありがとうございました。

○山口会長 はい、ありがとうございます。それでは次の議題に進ませていただきます。「第3期横浜市スポーツ推進計画（原案）について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは資料2-1「第3期横浜市スポーツ推進計画に向けた審議スケジュール」をご覧ください。真ん中より下段の黄色く網掛けしているところが、本日第6回の会議になります。審議内容が先程のメインアリーナ名称についてと、第3期横浜市スポーツ推進計画（原案）について、でございます。その下に国の予定がございますが、国は3月末には計画の大臣決定と官報公示というスケジュールになっております。その下、横浜市では3月15日に議会の常任委員会で原案の報告をさせていただき、3月末には原案の確定をさせていただきます。水色のところ、令和4年5月頃に第7回会議を開催させていただいて、「第3期横浜市スポーツ推進計画（計画案）」をお諮りし、「横浜市におけるスポーツ振興について」答申案をいただく予定でございます。5月末には第3期横浜市スポーツ推進計画を策定し、6月に議会で報告の上、公表というスケジュールを予定しております。

続きまして資料2-2をご覧ください。「第3期横浜市スポーツ推進計画の策定について」でございます。「第3期横浜市スポーツ推進計画（素案）」について、令和3年12月2日に開催された第5回審議会での議論及び市民意見募集（パブリックコメント）にていただいた御意見等を踏まえて、原案を作成しました。

「1 市民意見募集の概要について」です。意見募集期間は1月17日～2月15日、募集方法は「ア 素案の配布・閲覧」として、各区役所広報相談係や市民情報センター等で、概要版を配布いたしました。また、詳細版を配架し、閲覧できるようにしております。「イ 関係団体への周知依頼」ですけれども、横浜市スポーツ協会加盟の競技団体等、74団体に周知をしております。また、市内に立地する大学29校にも周知をいたしました。「ウ ホームページへの掲載及びSNS、メーリングリスト等による周知」も行っております。また、広報よこはまの令和4年1月号でも周知をしております。

「2 実施結果について」です。意見数は130人と3団体で、187件となっております。前回の市民意見募集時は、77人と2団体、249件でしたので、人数については多くなっておりますが、意見数は若干減っているところでございます。（2）受付方法別の内訳ですが、電子申請システムが110ということで、全体の82.7%を占めておりまして、インターネットでの受付が多数を占めております。（3）御意見への対応状況ですが、御意見の趣旨を踏まえ、素案を修正したものが24件、趣旨が既に素案に含まれていると考えられるものが21件、素案に賛同いただいたものが24件、参考とさせていただくものが113件、その他の御意見・質問等が5件という内訳になっております。別紙に御意見の対応状況についての抜粋を付けておりますので、どうぞご参照いただければと思います。

「3 市民意見募集等により追加した主な点」です。第2章に横浜市におけるスポーツにおける現状と課題の部分に、中学校の学校部活動の状況を追加いたしました。なお、後ろのカッコ書きは原案本文の掲載ページになります。次に令和3年度横浜市スポーツ意識調査の結果も掲載いたしました。これまで作成の関係で、令和2年度の結果について様々な分析をしておりましたが、今回令和3年度のデータが出ましたので、その結果のみ追加で掲載しております。同じく令和3年度の、児童生徒の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果も追加しております。



次に第3章「1 目標」に、誰もがスポーツを楽しみ、喜びを感じながら取り組めるようにするため、「つくる／はぐくむ」の視点というものを追加いたしました。こちらは国の基本計画においても、これまでの「する」・「みる」・「ささえる」の他に「つくる／はぐくむ」の観点というものが追加されておりますので、合わせて横浜市の計画にも追加したものでございます。

次に指標と数値目標ですが、スポーツの根源的な価値（喜び、楽しみ）の思想が反映されると良い、というご意見をこちらの審議会でもいただいたところでございますが、その指標として、「スポーツが好きな人の割合」という数値目標をあげさせていただき、今回の計画で75%以上という目標を立てております。

「取組 10 障害のある子どもがスポーツを楽しむ機会・場の充実」では、一般学級に在籍する体育の授業参加を希望する障害のある子どもの体育見学ゼロを目指し、市立学校における取組を推進すること、を追加しております。こちら審議会で御意見をいただいたところでございます。

「取組 13 地域スポーツ指導者の養成・活躍支援」では、スポーツ指導に関する基礎的な知識や技能を身につける機会とするとともに、体罰や暴力、その他不適切指導の根絶を目指すこと、を追加しております。

「取組 14 スポーツボランティアの育成・活躍支援」では、イベントを支えるチームの一員であるスポーツボランティアに対し、日ごろの活動に対する感謝を伝える取組を進めること、と追加しております。

「取組 17 多様な主体が利用しやすいスポーツの場の充実」では、多様な主体がスポーツ活動に参画し、地域とのつながりを築くことで、地域コミュニティの活性化を図ること、と追加いたしました。

「取組 20 大規模スポーツイベントの誘致・開催支援」では、主催者と連携し、安全・安心な大会運営と、より快適に観戦できるよう取り組むこと、と追加しております。

「4 今後のスケジュール（予定）」でございますが、先程資料2-1で説明した通りでございます。説明は以上でございます。

**○山口会長** それでは皆様からご意見を頂戴したいと思います。ぜひ活発な御意見を頂戴したいと思いますので、お一人一回はご発言いただければと思います。

**○平井委員** 前回の第5回のときに、萩委員からスポーツ推進委員に対してかなり厳しい御意見をいただきましたので、年明けの1月に守屋課長同席の上、今策定しているこの流れを説明いただきました。私の方から改めて、これが出来た暁には各18区の会長に、またそれぞれの地区があるわけですので、推進委員に周知徹底するようにということで、我々実行部隊としても、これを元にこの推進計画がよりよいものになるようにやっていきたいと思っております。

**○山口会長** ありがとうございます。それでは荒井先生いかがですか。

**○荒井委員** 小学校の方ではやはり体力が低下しているところですが、合わせて教員の指導力が低下する状況があるな、というのは感じます。例えば水泳指導を2年間やっていないとなるとですね。やっている学校とやっていない学校がある、という状況もありまして、その中で「じゃあ来年度、水泳指導できるんだろうか」と心配に思っている教員もおりますし、運動会も縮小していますから、そういう色んな大会を運営する力というのも、それから働き

方改革というのもあるんですけど、それに準じてそういう現状があります。先程追加した取組について目についたのが、「取組 13 地域スポーツ指導者の養成・活躍支援」で、こちらの方もこれから色んな事が変わってくる状況があると思います。目指す人、どんなことを目指して行くのが地域スポーツについても色んなことがこれから考えられてくるんだろうなと感じました。以上です、ありがとうございます。

○山口会長 ありがとうございます。それでは現場の方からで恐縮ですが、平野先生いかがでしょうか。

○平野委員 先程ご説明いただいたように、市民の意見が随分反映されて、より好ましいものになったと思います。この委員会の意見というのも含んでいただいておりますので、結構かと思います。

○山口会長 ありがとうございます。それではオンラインでご参加いただいている先生方、恐縮ですが小田先生からでよろしいでしょうか。

○小田委員 範囲が広くてどこをどう話せばよいか戸惑っています。1つは第3章「スポーツ都市横浜」の実現に向けて、というような表題がありますが、読んでいて今一つパッと来ないと言いますか。やっぱり、この文章の中にもありますが、「する」・「みる」・「ささえる」というのは大きなキーワードになるし、柱になるのではないかと思います。先程スポーツ庁の2つの追加というのがありました、が、「する」・「みる」・「ささえる」スポーツというのをもう少し全面的に出して、それとの繋がりの中で1つを見ていかないと、何が実現するんだろうか、というのが全く見えない気がしました。

もう1つはちょっと細かい話ですが、横浜市スポーツ医科学センターというのがあります。これは現在、スポーツ協会の中に位置付けられていると思うんですが、横浜の中ではJISS、国立スポーツ科学センターよりも先に出来ている、多分国内で最初の組織だと思うんですね。で、これをどうして横浜市で活用しないのかな、というのが昔から疑問になっていたんですけども、1つだけ40ページの取組8の中で「連携・活用」というのが出ているので、これはもう少し上に上げて良いのではないかな、という風に思いました。

○山口会長 ありがとうございます。それでは石黒先生お願いいたします。

○石黒委員 はい。細かいところでもよろしいでしょうか。報告書の書きぶりになってくるんですが、5ページで計画の扱いについて述べられている部分があるかと思います。「毎年度確認し、進捗を管理していく」という記述があると思うんですが、これまでの状況でも結構なんですけれども、具体的にどういう方法が取られるのでしょうか。意図としては、何かもう枠組みが決まっているのなら、それも明確に書いておいた方が良いのではないかな、ということなんですけれども。

○事務局 この進捗管理につきましては、今迄もそうだったんですけども、それぞれの取組について、市民局のスポーツ振興課だけでなく、教育委員会他、健康福祉局、もしくはこども青少年局など、私ども以外の局がやっている事業も含まれておりますので、それぞれ年度末に、取組・事業を実施している局に照会をかけまして、その実績をもとに進捗状況の確認をしているという流れになっております。

○石黒委員 そうすると自己評価と合わせて進捗管理していくという形になるかと思えますけれども、計画はやはり実行性を担保するということところがとても重要だと思いますので、具体的に書けるところは書いていけたら良いのかな、という気がしました。

あと、36 ページの目標値のところ、スポーツが好きな人の割合という、この目標自体はとても良いと思うんですが、現状 66.3%というこの数値は、どこからの出典になりますか。

○事務局 こちらについては、私どもの方で毎年やっております、横浜市民スポーツ意識調査の中で、「スポーツをすることが好きな人」「見るのが好きな人」「ささえることが好きな人」と、「スポーツが好きではない」という選択肢でアンケートを毎年取らせていただいております、「その中でスポーツが好きではない」と答えた人の割合を、100%から引いた数字になっております。

○石黒委員 分かりました。計画の中で多分ここで初めて出てくる数字かと思われまして、必要があれば出典等明記されても良いのでは、と思いました。

全体の、現行の計画からの継続性みたいなところでの話になりますが、前回の計画でも目標が立てられていたかと思えます。それに対しての分析結果というのは、第2章の中ですかね、本文の中では幾つか触れられているかと思うんですけども、もっと明確にしても良いのでは、という気がしました。現行の計画でもまさにPDCAということをやっているかと思うんですけども、ちゃんと今の目標に対してどうだった、だから次こうしよう、というところが、もっと分かりやすくなっても良いのかな、という気がします。その中で特に、子どもの体力のところ、これまでは昭和60年の水準に回復させよう、ということがあったかと思うんですが、今回はこれ、入っていないということになるかと思えます。これはもう、目標値としておかない、という理解でよろしいのでしょうか。

○事務局 こちらについては、60年代の体力水準に戻す、回復するというのが前計画ではございましたが、今回はその目標値は入れない、ということにしております。こちら国の基本計画の方も同様に、60年代に戻す、というものがなくなっている状況でございます。

○石黒委員 ありがとうございます。そうだとするとこれも、本文を読んで行くと、60年代に戻すという目標が妥当かは、検討が必要です、という表現は何か所かあったと思うんですけども、読み進めていくと、この目標値が出てきて、そこでいきなり消えているので。読んでいく方としては、検討するんじゃなくて、なくなったのね、と話が飛躍する印象があるかと思えます。これも、近年は横ばい傾向で、60年代に戻すという目標値自体がどうか、という議論がこの会議でもあったかと思うんですけども、そういうEBPMというエビデンスに基づいて政策を決定していこう、というプロセスに沿った取組だと思えますので、その経緯は明確に書く必要があると思えます。それをきちんと説明するというのは、とても根拠のあることなので、寧ろ打ち出していてもいいんじゃないのかな、と感じた次第です。

今の子どものお話もそうですが、現行の計画との継続性のところ、例えば目標値があるページに、現行での目標はどうだったのか、それに対して現状値があって、新しい目標値があるという風な見え方でもいいのかな、と感じました。いずれも全部ここで議論されていることなので、あとは書きぶりの問題だと思います。

○山口会長 ありがとうございます。それでは萩先生お願いいたします。

○萩委員 我々の意見をたくさん取り込んでまとめて下さったせいか、国の基本法よりも取組が多く、総花的になっていて、これはやるのが大変だな、と最初はそんな感想を持ちました。横浜は非常にスポーツも熱心ですし、そのための資源もたくさんありますので、ぜひこれを実現していけたら良いと思うのですが、この計画の中で、取組のところの文章を読み

ますと、やっぱり誰がやるのかな、というのが。これ全て、横浜市の役所がやるわけにもいかないし、もう少し主語というか、この取組はどういう人たちが中心になって、取り組むのかが分かるような文章表現があると良いかな、と思いました。もちろん明確に書いてある取組もあるんですが、何となくぼんやりしていて、これ誰がやるのかな、という部分があります。国の基本計画も、国民を巻き込んで、国民にもやっていただくというようなスタンスで作っていますけれども、やはり市民が置き去りにされないように、市民も何らかの形で関わられるような、そういう表現もあって良いのかな、という風には思います。ですから誰がどうやっていくのか、というところをもう少しクリアに書けると、本当にこの取組が実現するんじゃないかな、と思ったのが1点です。

それともう1つは、国の施策だと、必ずこれに対して予算というお金をつけて、この取組についてはこの予算でやりますよ、というのが割とクリアになっています。全ての取組が、お金がかかるものではないのかも知れないんですけども、やっぱり改めて、例えば部活動の地域移行なんかは、これ非常にお金のかかる部分だと思うんですよね。そういうのを5年後、これから5年間の計画の中で、必ず動いてくる場所ですので、その辺りのところの兼ね合いというか、関係性みたいなものがもう少し見えると、実現可能になるかな、と思います。書いて終わらないで、きちんと実行して行く、ということであれば、誰がやるのか、それとそれに対する予算はあるのか、みたいなことが、もうちょっと見えてくるといいかな、と思いました。

最後にもう1点、前段の方に色んな団体、企業、教育委員会、あるいは様々なスポーツ団体、地域スポーツクラブ、色んな団体関わってこの計画を実行していきますよ、と書いていますよね。そういうところに対して、この計画をどのように周知していくのか、その辺の戦略もちょっと知りたいと思います。以上3点です。ありがとうございました。

○山口会長 貴重なご意見ありがとうございました。それでは、宮嶋先生お願いいたします。

○宮嶋委員 今の萩先生がおっしゃったことと非常に似ているのですが、やはりこういうスポーツ推進の計画というのは、その土地の特徴に合わせて作っていくものなんだろうな、と思います。何が横浜の特徴なのかな、と考えた時に、プロフェッショナルだとか、イベントだとか、大型のものを呼び込むことが多いので、そういったものとの連携を取るというのは分かるんですけども、これはある意味カンフル剤的なものであって、日常の毎日食べる食事というか、毎日採る食事としてのスポーツみたいな発想というのが、ちょっと見えてこないな、という気がいたしました。それは前から思っていることなんですけども、横浜市がやっぱりイベントというものを大切にされている、というのはとても良く分かるんですけども、それによって市民一人一人の健康と繋がるようなもの、いわゆるパフォーマンスの高いトップアスリートのイベントだけではなくて、一人一人が身近に必要なスポーツや身体活動、そういったものをどうやってサポートしていくかということ、具体的にもうちょっと書いて欲しいな、という気がしました。例えば高齢者、部活動、子ども、と書いてありますけれども、これをじゃあどこでどうするのか、ということが、パラパラとはあるけれども、そのベースになる部分の記述が、しっかりと書かれていない。私は、これは総合型地域スポーツクラブなどが担うべきだと思っています。かつ、こういった部活動の地域移行ということも今注目されている中で、日本スポーツ協会などは、今の倍以上の総合型地域スポーツクラブをこれから作っていきたい、と言っているんですよね。出来るか出来ないかは分かりませ

んけれども。ただ、横浜市のような場合に、市民の意識として総合型が馴染むのか馴染まないのか、というようなご心配もあると思いますけれども、こういったものの重要性というのももう一度、考えていただけないかな、という気がしています。要するに市民のスポーツのハブになるものですね。私はフィンランドの先生に言われた言葉をいつも心に置いているんですが、誰もがトップアスリートになれるわけではないけれども、誰もが健康になれるスポーツや身体活動を行うことが出来るんだよ、という、毎日の食事と同じような形の身体活動をどうやって、どこでやっていくのかということ、もうちょっとクリアにしていると嬉しいかな、と思っております。

先程萩先生もおっしゃった資金面等については、部活動の指導員の配置を今後学校から地域に移行するにあたって、これ資金のことは何も書いていないですよ。これは横浜市が出して下さるのかしらと思いつつ読んでいたのですが、その辺りももうちょっと明確にさせていただけると、これに携わりたい、という人も出てくるかも知れないし、総合型でも違う形で受け皿になりたい、というところも出てくるかも知れないので、お金の流れをもう少し、ちょっと承認する場所が違うといわれるかも知れませんが、そこまで書いていただくとありがたいなと思いました。以上です。

○山口会長 貴重なご意見、ありがとうございます。それでは小熊先生いかがでしょうか。

○小熊委員 今までの先生方からも出ていることではありますが、計画なので、特にこの取組の部分が大事なところだと思います。ボリューム的にも内容的にも、ご指摘されているように、具体的に誰が何をやるのか、とか、行政の方だけでなく、どういう方たちと一緒にやるのか、予算がどこから、というようなところが分かるような形、かつやったことの評価をどういう風にするのか、というようなことも、示せると良いのかなと思いました。あと、SDGsのマークがついているんですが、どうなんでしょうか。もう少し当てはまるのがあるのかな、と思いました。恐らく複数のところが一緒になって、行っていくものだと思うんですけども、協働していくプロセスとか、あるいは市民が自分事化して、取り組めるような見え方が出来ると良いかと思いました。参考までですが、2018年にWHOが身体活動に関する世界行動計画というのをを出していて、それにシステムザアプローチという形で、スポーツや身体活動の推進に関して、多くの立場の方が一緒に行っていく入り口と出口について整理しているんですけども、今更それを取り入れるのは難しいかも知れませんが、考え方の整理にはなるかと思しますので、紹介させていただきます。

○山口会長 ありがとうございます。それではお忙しいところご参加いただきました、ヨーコ・ゼッターランド先生いかがでしょうか。

○ゼッターランド委員 参加が遅くなりまして、申し訳ありません。ここまで先生方のご意見等を伺わせていただいて、やはり取組のエリアが、本当にものすごく多岐にわたっていると感じました。それぞれの問題点を拾い上げていただいているのですが、ただそれがもう、本当に多いというところでは、なかなかじゃあ、これをどうやって実現していくかというのは、それも1つの大きな課題ではあると思います。私は指導者育成等の方で関わっていたりするところがあるものですから、指導者、例えば資格を持って地域に出て教えるといったときに、それをどこでどうやってという、活動の場、地域のスポーツを活性していくのが、自分事、自分たちが、というところでのそういう場所であったり、システムであったりという風な形で、与えていただく、活性するためにやってもらうだけではなくて、自分たちがどん

どん積極的に関わっていけるような、自分事として捉えられるような形で出来たら、もっと良いのかな、ということを感じました。

○山口会長 ありがとうございます。それぞれ貴重なご発言をいただきまして、ありがとうございます。全体を通しまして、まだご発言される委員の方がおられましたら、頂戴したいと思いますが。よろしゅうございますか。それでは本日予定された事項は、すべて終了ということでございます。

## 5 その他

○山口会長 その他、委員の皆様から何かございましたら、頂戴したいと思いますが。よろしいでしょうか。それでは事務局からでございますでしょうか。

○事務局 委員の皆様、どうもありがとうございました。次回の審議会につきましては、5月を予定しておりますので、後日、日程調整をさせていただきます。本日はありがとうございました。以上です。

○山口会長 はい、ありがとうございます。それでは。

○宮嶋委員 最後にすみません。横浜市体育協会の名称が変わって、レクリエーション協会と一緒にになりましたよね。何かお仕事具合とか内容とか、変わられましたか、色んなことで。名前が変わっただけですか。

○山口会長 実際には名前が変わったというか、まさに「する」・「みる」・「ささえる」の部分で、各加盟団体と連携しながら、この間コロナの関係もありますけれども、更にスポーツで横浜を元気に、という思いは変わりませんけれども。何かあったんですかね。

○事務局 はい。以前の横浜市体育協会から横浜市スポーツ協会に名前が変わったから、ということではないかと思うんですけれども、スポーツ協会の中にインクルーシブスポーツの担当課というものを立ち上げて、インクルーシブスポーツとパラスポーツにも取り組んで行こうという動きが強くなってきていますので、その辺りは変化が出たのかな、とは思っております。

○宮嶋委員 レク協と一緒にになったことで何か変わったことはありますか。

○事務局 ええ。レクリエーション協会さんは位置づけからすると、スポーツ協会の加盟団体という形になっておりまして、具体的には教育委員会主体のこどもマリンスクール。レクリエーション協会が主体で、横浜の子どもたちが海に親しむ事業をやっておりまして、そちらを当スポーツ協会が主体となって、運営をするような形になってきています。

○宮嶋委員 どうもありがとうございました、最後の最後に妙な質問で。どうも気になったものですから。ありがとうございました。

○山口会長 とんでもございません。ありがとうございます。ゼッターランド先生よろしいですか。はい、ありがとうございます。

## 6 閉会

○山口会長 それでは皆さんありがとうございました。ただいまをもちまして、第6回会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。